

令和 7 年 1 月 31 日

世田谷区立世田谷小学校
学校関係者評価委員会

世田谷区立世田谷小学校
校長 金子 佳生

令和 6 年度 学校自己評価報告書

1 本校の目標及び計画

◇教育目標

世界の子ども 日本や世界の国々に興味・関心をもち、それぞれの文化と伝統を理解し、大切にしようとする子ども
自己と違うものを広く深く受容できる子ども

正しい子ども よく考え、正しく判断して、行動する子ども

がんばる子ども 心身共にたくましく、めあてをもって、すすんでやり遂げる子ども

やさしい子ども 人や自然、身近なものを大切にし、助け合う子ども

◇教育目標達成のための基本方針

「子どもが自ら育つ学校」～みんなに居場所がある楽しい学校～

◇今年度の重点目標

- ◎「はじめに子どもありき」を基盤とした「みんなに居場所がある楽しい学校」を実現する。
- ◎子どもの「やりたい」が実現でき、子ども自ら学習する学校
- ◎一人一台端末を活用し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を充実させ、子どもが「わかる喜び」を実感できる学校
- ◎子ども一人一人に居場所があり、それぞれの多様な個性を生かし、認め合い、共に学び育つ学校

2 学校の概要

◇校長 金子 佳生

◇学級数 20 学級

◇児童数 504 名（令和 7 年 1 月現在）

◇学校の特色

令和 6 年度 世田谷区教育委員会研究指定校「授業改善」個別最適化、単元内自由進度学習を取り入れた授業展開を行う。生活・総合的な時間を中心とした探究学習、通常学級と特別支援学級の日常的な交流、たてわり班活動、朝スポ、チョコスポ、陸上教室、読み聞かせ、サマースクール、子どもまつり、地域との連携（防災デー、世田小地域ネット「いぶき」、子ども食堂「いよいよ食堂」、保護者有志「わかばカフェ」）

◇ホームページアドレス <https://school.setagaya.ed.jp/seya/>

3 全方位的な点検・評価（自己評価）

○印：肯定的評価の項目のうち、特に意見のあった項目

●印：特に組織全体として否定的評価の回答があった項目（→は改善策等）

（1）重点目標への取組

教育目標・重点目標の達成に向けた学級や各教科での取組についての自己評価

○総合的な学習の時間・生活科で子どもたちがやりたいことを実現できる体験に全学級で取り組み、「協働的な学び」の充実を図ることができた。子どもたちが探究したくなるような学習になっていたか、子どもたちにとって必然性のある活動、内容になっていたかについての視点をもち、全員で検討、協議を行った。その他の教科や場面での子どもも主導で行う時間が増えてきたことも成果である。また、職員室において教師同士が一人一人の子どもの見取りについての話す場面が多くなった。教師がありのままの子どもの姿を受け止める姿勢が向上してきた。

●子ども主導の学びに向け、必要に応じた働きかけとは何か、子どもと共に追及する教師のあり方について引き続き追及していく必要がある。また、様々な角度から多角的に子どもを見取ることができるように研修等を定期的に行い、児童の見方を広げ、児童理解を深めていく。

○単元内自由進度学習を全学年で取り組むことができた。自分のペース、進度に合った個別最適な学習の在り方を追求することができた。子ども自ら選択したりする力や達成感が得られた。

●学習の基礎基本を大切にしながら誰もが安心して過ごせるよう一人一人のペースに合わせた学習の在り方について今後も検討していく必要がある。

○このような取り組みの結果として、不登校児童が減少した。今後も引き続き一人一人の居場所（時間、空間、仲間）づくりを進めていく。

（2）地域との連携・協働による教育の評価

保護者地域連携・地域運営学校・学校支援地域本部・学校協議会・PTA活動・家庭教育支援についての自己評価

○各クラスの総合的な学習の時間・生活科の活動等で、保護者や地域、学校支援地域本部の大きな支援のもとに成り立つものが多かった。子どもたちにとっても保護者や地域の方にとっても楽しく充実した時間となるよう無理のない依頼の仕方等を工夫して進めていきたい。

●「こどもまつり」をはじめとしたPTA活動、こいのぼり、年賀状設置、雪の滑り台等の地域ネット「いぶき」による様々な行事、イベントによって学校が活性化され、学校の重点目標の達成に近づくことができた。教職員、保護者の多忙感、働き方改革の視点をもちながら、学校が一方的に支援されるだけでなく、双方に関わっていく方法を考えていく必要がある。

（3）「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育活動の推進の評価

教育課程・教育目標・学習指導・教科日本語・生活総合・生活指導・道徳教育・特別活動・学校行事・体育・健康教育・食育・キャリア教育・進路指導・せたがや11+、キャリア未来デザイン教育・特色ある教育・特別支援教育・幼保小の連携についての自己評価

○「学び舎」において児童が自主的に保育体験活動に参加する企画を開催し、保育園との連携を始めることができた。今後も継続していく。

（4）信頼と誇りのもてる学校づくりの評価

学校経営・学校運営・「学び舎」による学校運営・学校評価・教職員・研究・研修・保健管理・衛生管理・安全管理・広報活動・情報提供・出納・経理・文書・情報管理についての自己評価

●「学び舎」については、特に中学校との連携について児童会を通した活動や中学校交流の在り方等を再検討し、新たな形を検討していく。

●学校ホームページについて、行事ごとに見やすく、わかりやすく情報を発信し、充実させていく。

(5) 安心安全と学びを充実する教育環境の整備の評価

施設・設備に関する自己評価

●校舎老朽化が進み、教室数が足りないことが課題となっているが、定期的な安全指導と安全点検を行い、実態に応じた環境整備を実施する。